

式 辞 （令和六年度 二十五期生卒業式）

六甲から吹き降りる風も和らぎ、春の訪れが感じられる今日の佳き日に、第二十五回卒業証書授与式を挙行できますこと、教職員一同、この上ない喜びと感じております。

ただ今、卒業証書を授与しました 339 名の皆さん、卒業おめでとうございます。これまで授業、系活動、部活動と仲間とともに過ごした時間は皆さんにとって掛けがえのないものになったことと思います。しかし、決して順風満帆の日々ばかりではなかったはずです。それぞれが思い悩み苦しんだこともあったことでしょう。もがきながらもそれを乗り越え、今日の日を迎えたことをまず、称えたいと思います。

学校生活を振り返ると二十五期生の皆さんは、互いの個性を認め合い、協力して物事を作り上げる団結力のある素晴らしい集団に成長しました。その姿勢は後輩たちにも受け継がれたことと確信しています。この六甲アイランド高校で学んだ三年間で生きる力の礎を十分に培うことができたと感じています。

さて、これから訪れる時代は変化の激しい予測不能の時代と言われています。そのような社会の中で、皆さんが自分自身を見失うことなく生き抜くためには、自身で状況を精査・分析し、考える「考え抜く力」、他者とともに物事を成し遂げる「協働力」、困難な局面でも投げ出さず、柔軟に対応する「しなやかな心」が必要であるとこれまで話をしてきました。これからも力を高めるべく、頭に留めておいてください。

卒業にあたり、最後に皆さんに伝えたいことがあります。それは『目の前のすべきことに真剣に向き合う姿勢を持ち続ける』ということです。これから歩む人生の中では、様々な課題や壁に直面することが必ず起きます。より一層自身で考えることが重要となりますが、安易に投げ出さず、その時こそ自分を信じ、目の前のことに真摯に向き合うことが大切です。

内閣府から世界で活躍し「日本」を発信する日本人に選ばれている、バルセロナのサグラダ・ファミリア主任彫刻家 外尾 悦郎（そとお えつろう）さんが述べられた言葉です。

「今がその時、その時が今。今この瞬間、目の前のことを真剣に取り組まない人には、決してチャンスは訪れない。」

目の前のことに真剣に取り組むことが、長期的な成功を導く鍵となります。現代社会では、他人の動向に気を取られがちですが、目の前のことに真剣に向き合うことで、人生に変化をもたらすことができると思っています。自身の夢・目標に向かい、自分を信じて、一步一步歩いていってください。

最後になりましたが、本日ご臨席を賜りました保護者の皆様、ご卒業の日を無事迎えられましたことを心より御祝い申し上げます。本日までの道のりは決して平坦なものばかりではなかったことと思います。大切に育ててこられたお子様の立派に成長されました姿に感慨もひとしおのことと拝察いたします。また、今日まで、本校の教育活動に対しまして暖かいご理解とご協力をいただきましたこと、心からお礼申し上げます。

それでは卒業生の皆さんのこれからの活躍を祈念するとともに、皆さんの前途に幸多からんことをお祈りして、式辞といたします。

令和七年二月二十七日

神戸市立六甲アイランド高等学校長

藤 田 博 久